

二〇一七年新年の抱負

【会長 小林徳子】

あけましておめでとござい
ます。

2017年新しい年を迎え
ました。昨年は大阪平和委員会結
成60年を迎え、あらためて平和
民主主義、憲法を守る運動の重
要性を痛感しました。一方、安
倍政権は戦争法の強行採決に続
き、南スーダンへの自衛隊派兵
など戦争の道に突進しています。
私は、75年前の戦争突入の様
相を思いおこしております。こ
れを阻止するために今年には更
に平和委員会の若者を含む組織の
拡大強化、他団体との共闘など
急がなければなりません。「ど
の子どもも殺し殺されること
のないように」全力で奮闘しまし
よう。そして社会進歩、世界平
和に貢献できる大阪平和委員会
へと一層努力してまいります。

【副理事長 玉置敏次】

2016年平和行進で大阪平和
委員会の旗を和泉佐野市から兵
庫県川西市まで持ち通した。そ
れで感じたことは、会員がいな
い行政区が多いことである。

新年は傘寿を迎える節目の年
である。畑田重夫日本平和委員
会顧問の「志は高く姿勢は低く
旗は高く旗竿は深く」との志を
胸にきざんで摂津市、茨木市で
の平和委員会設立に挑戦したい。

【和泉 浅田健司】

2017年は憲法施行70年に
あたる年で、私も75歳になりま
す。今日の前にあるのは政府文
部省が出した「あたらしい憲法
のはなし」をそのまま掲載した
パンフレットです。この中で分
かりやすく説明されている「平
和の為にどうしても必要な事」
は民主主義を大切に、二度と
戦争をしない事、そして一切の
武器を持たない事とあるのです
が、現在は明らかに逆方向にす
んでいます。私たちの憲法は
この国のものとしてだけでなく、
全世界のものとしての確信を持
ち、このパンフ普及活動にも取り組
んできた事など想い浮かべなが
ら平和への新たな決意を固めて
いるところです。

【北区 大住弘明】

武器なきクーデターともい
うべき安倍自公政権の暴走ぶり、
一日一日私たちの平和・民主主
義を踏みしめる現状に切歯扼腕
の思いです。私たちの組織は大
都会の、関西財界の、そして巨
大マスコミの集中している地域
のなかで平和と民主主義の声を
届ける組織にならなければならない
えびまだまだ程遠い状況と言わ
なければなりません。

今年には地域に拠点を置く組織
として情勢と地域性にふさわし
い組織になっていくよう頑張っ
ていきたいと思っています。

【八尾会長 丸山豊美】

現在の憲法は私の生まれた時
から存在し空気の様なものでし
た。黒田知事誕生の頃「憲法を
くらしに生かそう」という言葉
はいろいろな分野での活動の柱
でした。しかし今、教育、医療、
福祉を支えるための憲法は隅っ
こに追いやりられ、平和そのもの
もおびやかされています。ひと
りひとりに安全で安心な生活を
保障するために憲法を守りお金
の使い方を変える政治が行われ
るよう声をあげ連帯を強めてい
く時だと思っています。

初の宿務西ブロック会議成功

日本平和委員会関西ブロック
会議が、11月19、20日奈良県平
群町内で関西6府県から33人が
参加して行われました。この1
泊2日の会議は、各府県平和委
員会の親睦を深めるとともに、
安保法制（戦争法）の具体化
南スーダンへの自衛隊派兵が焦
点となる年末から来年にかけて
平和委員会の活動と組織を強化
拡大する目的で開かれました。

【南スーダン派兵反対宣伝
20日は南スーダンPKOへの
陸自第一陣出発日に当たするため、
会議終了後近鉄生駒駅前、11
人が参加して「安保法制（戦争
法）の発動を許すな」と緊急宣
伝行動を実施しました。この行
動で「自衛隊に『駆け付け警護』
など新任務を付与せず、南スー
ダンからの撤退を求める署名」
が33筆集まりました。



冒頭、千坂純・日本平和委員
会事務局長は開会挨拶のなかで
「武器使用ができる新任務を与
えられて自衛隊の部隊が南スー
ダンに派兵されようとしてい
る」「派兵を静観するのではな
く、部隊の撤退、安保法制（戦
争法）の廃止を求め続けること
が平和運動の責務」だと強調し
ました。

続いて映画「いのちの森・高
江」（謝名元慶福監督・佐々木
愛語り）を鑑賞後、この会議の
ために沖縄県名護市からかけつ
けた福山功勝さんが、高江での
オスプレイパッド基地建設工事
強行に伴う安倍政権とその操り
人形である機動隊員の傍若無人
について毎日現場を体験してい
る人ならではの報告をしました。
次に元気な地域組織の活動報
告と交流。5月に結成された大
阪・吹田平和委員会の永松玲世
話役が次のように報告。

「結成総会で『裂かれる海』
を上映し、その様子をフェイス
ブックで発信した。高江のこ
とをみんなに知ってほしい」と
思っていた『ママの会』の会員
がそれを見て、平和委員会に相
談したらいいかも、というの
が発端で7月『標的の村』共同
上映会が実現した。上映会には
200人が参加し、大幅黒字と
なり、全額高江支援カンパに回
した。会場では『ママの会』会
員など4人を会員（兼新聞読者）
に迎え入れることができた」

今月の言葉

「若者の死因トップが自殺」
現在進行形で、日本社会は若者
(15~34歳)の精神を蝕んでいる。
それに伴い、若者の自殺率も高い特徴
がある。事実として、主要先進国におい
て、若者の死因トップが自殺であるの
は、日本だけであり、……世界で最も
若者が生きにくい先進国だと言っ
ても差し支えないと思う。
(『貧困世代—社会の監獄に閉じこ
められた若者たち』
藤田孝典著 講談社現代新書)





総がかり沖縄連帯集会

おおさか総がかり行動実行委員会は、10日「オール沖縄」の民意を尊重し、辺野古と高江への基地押しつけは許さない」と4千人の参加で集会を開きました。

集会では、伊波洋一参議院議員が「安倍政権は、本土から機動隊員を動員して、ノグチゲラなど自然の宝庫・ヤンバルの森にオスプレイパッド(着陸帯)の建設を強行しようとしている。沖縄と本土が連帯して安倍政権の辺野古新基地建設、高江での暴挙にストップをかけよう」と、辰巳孝太郎参議院議員が「野党と市民の共同を強め、『戦争する国』づくりと沖縄への基地の押しつけに暴走する安倍政権を打倒するため全力をあげよう」と、また、吹田「ママの会」代表が「高江に連帯するため吹田平和委員会と一緒に『標的の村』上映会を200人参加で成功させた」と決意表明をしました。

集会後、大阪平和委の仲間、旭、生野、北、天王寺、西淀川各区、東大阪市、堺市などの幟をもつて中崎町までデモ行進しました。



高江連帯行動

「上羽事務局長の参加報告」

安保破棄中央実行委員会は、11月26日沖縄県那覇市内で全国代表者会議を12都道府県68人で開催し、27日と28日は沖縄県東村高江のN1ゲート前で取り組まれていたオスプレイパッド(着陸帯)建設工事の強行に反対する座り込みに参加しました。

会議では、仲山忠克弁護士は「知事権限や市長権限を行使すれば辺野古新基地は阻止できる」、瀬長和男沖縄統一連事務局長は「砂利



諦めず心は丸く気は長く

11月29日、沖縄の新聞2紙は、翁長知事の就任2周年インタビューでヘリパッド受け入れ表明とも取れる「苦渋の選択」発言をとらえ、一面に大きく掲載。直後の現地抗議集会は、その評価で賛否大きく揺れました。

12月6日には、高江住民のヘリパッド工事中止仮処分申請に対し、沖縄地裁は不当にも却下。住民の騒音や低周波被害を一顧だにしません。

12月10日、米軍北部訓練場の一部返還式を前にして、高江のN1ゲート前で、全国統一行動に連帯する「高江オスプレイパッド・辺野古新基地建設を許すな！緊急県民集会」が開かれました。県内外から700名が参加。違法・無法を重ねる強行工事、民意無視の安倍政権に対する激しい怒りの発言が続きましたが、非暴力の伝統を貫く揺るぎない誇りが会場を包みました。

12月12日には、最高裁が「辺野古違法確認訴訟」の上告棄却を決定。県の敗訴が確定する見通しとなりました。

厳しい情勢の連続ですが、どう考えても正義は我々にあります。勝つまで諦めないのがこの闘いの素晴らしいところです。

さて12月4日、アメリカのノースダコタ州でアメリカ先住民や環境活動家が民間会社の石油パイプラインの建設計画を中止させました。

先住民スタンディングロック・スー族は、母なる大地、水と神聖な土地を返せと立ち上がりました。非暴力で抵抗する先住民らに犬や銃で過剰警備を行う警察当局の蛮行がSNSで世界中に広まり、国連人権委員会への訴えや著名人、退役軍人の抗議行動に、遂に米陸軍省が建設計画の中止を決定したのです。その知らせに、空にこだまするほどの大きな歓声が巻き起こり、涙を流しながら抱き合っただけで喜ぶ感動的な瞬間を米メディアは報じたといいます。

沖縄にこの光景が見られるのはいつか。私たちはその日が来るまで歯を食いしばりながらも、心は丸く気は長く闘うのです。

回文 「勝つまで丸く理解 民の見た怒り来るまで待つか」

(かつまでまるくりかい たみのみた いかりくるまでまつか)

1月の行事案内

- 6(金) 原水協新年「6・9」行動 12:00
ヨドバシカメラ前
- 11(水) 大阪平和委第3回理事会&新年会(費用1000円) 18:00
- 12(木) 「明るい会新春のつどい」19:00
グリーン会館 3000円
- 16(月) 沖縄連帯行動 12:00 近鉄上本町駅前
- 21(土) 日本平和委員会常任理事会(～22日)
- 28(土) //理事会 13:30(～29(日))
岡山市市民会館4F



搬入のダンプ60台を止めたい一念で早朝7時から高江で座り込みをしている。ダンプの巻き上げる土埃や機動隊による座り込み強制排除と厳しい現場だが、ユーモアと『倒す相手は政府だ』ということを忘れないようにと座りこみ支援者に呼びかけている。高江の異常を全国に知ってもらい、全国から支援者ももつときてほしい」と発言しました。



の砂利の搬入は午前一杯止めることができませんでした。

大阪平和委員会は、これに抗議するため、15日近鉄上本町駅頭で緊急宣伝行動を14人で実施しました。この行動では、14日小林会長名で安倍首相に送付した同機の飛行停止と即時撤去、新基地建設中止を求める抗議文と墜落現場の写真掲載したチラシもまきました。「沖縄県民の民意尊重と、基地の押しつけ撤回を求める全国統一署名」を22筆集めました。

13日オスプレイが沖縄県名護市安部沖で墜落・大破する事故が起

オスプレイ墜落に抗議